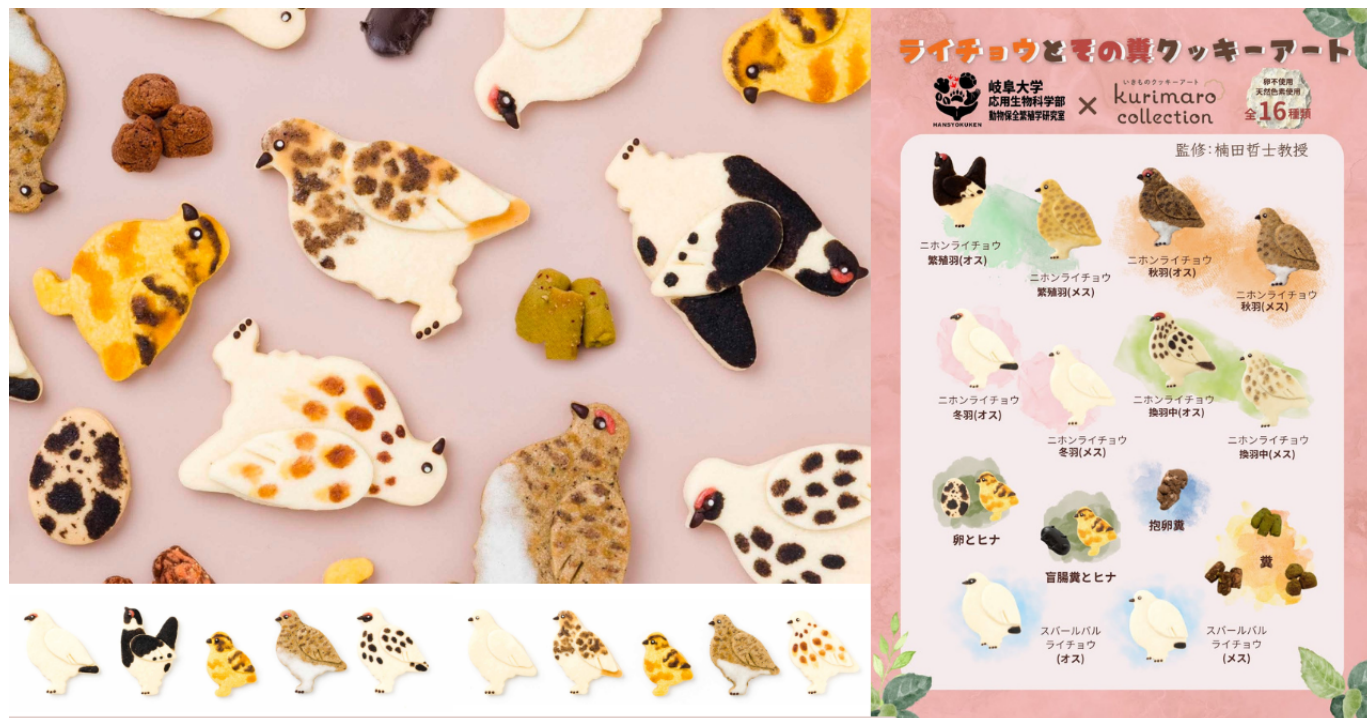


研究者×クリエイターで広げるライチョウ保全の裾野

クリマロ、岐阜大学 動物保全繁殖学研究室と連携し、ライチョウとその糞のクッキー16種を発表
～換羽などの生態をクッキーアートで伝える～



生物多様性をテーマに、1,300種以上の生きものをクッキーアートで表現してきたクリマロコレクション(本社:三重県、代表:栗田こずえ、以下クリマロ)は、岐阜大学応用生物科学部 動物保全繁殖学研究室(楠田哲士教授)とのコラボ第2弾として、ライチョウとその糞をモチーフにしたクッキーアート全16種を制作しました。

本シリーズでは、季節によって変化する羽色やオス・メスの違い、抱卵糞や盲腸糞など、ライチョウならではの生態を表現。絶滅危惧種の日本のライチョウ(ニホンライチョウ)を知るきっかけをつくり、その生息地である高山生態系や生物多様性への関心を広げることを目指します。

ライチョウ保全には「知る人」を増やすことが欠かせない

ニホンライチョウは、本州中部の高山帯のみに生息する日本固有の亜種で、国の特別天然記念物に指定される絶滅危惧種です(岐阜県・長野県・富山県では県鳥に指定)。

気候変動や捕食動物の増加などにより生息環境は厳しさを増しており、高山生態系全体を守ることがライチョウの保全につながります。

こうした中、岐阜大学 動物保全繁殖学研究室は、日本野鳥の会岐阜、日本山岳会岐阜支部などとともに、**2025年に「ぎぶライチョウ保全研究会」を設立**。関心を持つ人を増やすことも保全につながるという考えのもと、生息地での個体数調査や動物園との保全繁殖研究、普及啓発などに取り組んでいます。

研究者とクリエイターの連携

岐阜大学 動物保全繁殖学研究室の楠田教授は、糞に含まれる性ホルモン代謝物から、動物に負担をかけずに繁殖生理を把握する研究を進めています。この手法は、全国の動物園や環境省などと連携することで、絶滅危惧種の飼育・繁殖に活用されています。

ライチョウでは、動物園がニホンライチョウの保全飼育(生息域外保全)を始める前に、飼育繁殖技術を確認するため、海外から別の亜種のスバルライチョウを導入。その飼育を通じて、糞に含まれるホルモン代謝物の分析法も確立されました。

一方、生物多様性や絶滅危惧種の保全は、日常生活で触れる機会は多くありません。楠田教授は、研究者だけでは届けにくい知見や絶滅危惧種の存在を身近な形で伝えるパートナーとしてクリマロにオファー。2023年に展開した第1弾「ネコ科動物とその糞」に続き、今回の連携が実現しました。

四季をまとう、日本だけのライチョウ「換羽シリーズ」

本シリーズでは、日本のライチョウの大きな特徴である「換羽(羽の生え変わり)」に着目。年に3回換羽し、生息地の環境に合わせて羽色を変える姿を表現しました。

オス・メスで異なる羽色の微妙な違いや、繁殖期に大きくなる眼窩上肉冠(目の上にある赤い皮膚の裸出部分)なども、楠田教授監修のもと細部まで再現しています。

「糞」も命をつなぐ大切な存在

本シリーズでは、「糞」も制作しました。糞は、ライチョウの生態や繁殖を知るための重要な研究材料でもあります。

ライチョウの糞は、食べた植物によって色が異なります。抱卵期(6月)のメスは、糞を体内に溜め、大きな塊として排泄します。

さらに、ヒナは母鳥の「盲腸糞」を食べることで、高山植物を消化するために必要な腸内細菌を受け継ぎます。

こうした特徴を反映した糞5種を制作。厳しい高山環境で暮らすライチョウの生態や、親から子へと命をつなぐ仕組みを伝えるクッキーアートとして表現しました。



換羽・ヒナ・糞まで。全16種を展開

種類:ニホンライチョウ冬羽(オス・メス) | 繁殖羽(オス・メス) | 秋羽(オス・メス) | 換羽中(オス・メス) | 卵×ヒナ | 盲腸糞×ヒナ | 糞5種 | スバルバルライチョウ(オス・メス)

価格:糞300円(税込)～・ライチョウ各600円(税込)～

販売:8月20日～ | 場所:店頭・公式サイト | 監修:岐阜大学応用生物科学部 動物保全繁殖学研究室 楠田哲士教授

クッキーアートで研究を社会へ

クリマロは、生息地での調査や研究者・専門家へのヒアリングをもとに、生きものの生態や生息環境、研究の背景までクッキーアートで表現しています。

これまで大学・研究機関との共同企画16件以上、動物園・水族館との連携8件以上を実施。クッキーアートを入り口に研究を身近に伝え、生きものや保全への関心を広げています。

今後の展開

10月には「ライチョウ応援プロジェクト」に参加し、楠田教授と連携の上、ライチョウの生態や生息環境について学ぶ機会を提供予定です。

今後も食や体験を通じて、生息地への関心につながる取り組みを展開していきます。

岐阜大学 楠田 哲士

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学応用生物科学部生物圏環境学科／教授 | 岐阜大学動物園生物学研究センター／センター長 | ぎふライチョウ保全研究会／会長

動物保全繁殖学研究室について

岐阜大学 動物保全繁殖学研究室では、動物の糞に含まれるホルモン代謝物を分析し、非侵襲的に繁殖生理状態を把握することで、動物の飼育・繁殖・保全に役立てる研究を、全国の動物園、日本動物園水族館協会、環境省などと進めています。

株式会社クリマロ

生物多様性への関心を広げるため、生息地を訪れ研究者・専門家へのヒアリングを重ねながら、生きものをクッキーで表現してきました。「生きものを知ることは、その環境を知ること。環境を知るとは、人間との関わり方を見直すこと」この考えをもとに、調べ・考え・表現する体験機会を提供しています。

住所: 三重県桑名市北鍋屋町84-1 | 代表: 栗田こずえ | 設立: 2016年 | 電話: 0594-41-5837 | HP: <http://cookie-kurimaro.com>

